

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告とする。 公告掲載URL http://www.shindengen.co.jp/ir/ (ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。)

【お知らせ】

- 株式に関する住所変更、配当金振込先の指定、単元未満株式の買取・買増のお問合せについて
【証券会社等に口座を開設されている株主様】
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
【証券会社等に口座を開設されていない株主様】
株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行に特別口座が開設されております。
下記フリーダイヤルにお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
0120-232-711（三菱UFJ信託銀行証券代行部）
0120-094-777（三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部）
インターネットアドレス <http://www.tr.mufig.jp/daikou/> } 通話料無料
- 配当金の支払通知書について
租税特別措置法の2008年改正により、お支払する配当金について、配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」をお送りしております。
【配当金を「配当金領収証」、または「口座振込」にてお受取りになられる株主様】
「支払通知書」を兼ねる「配当金計算書」を同封しております。株主様が確定申告をする際の添付資料としてご利用いただけます。
【配当金を株式数比例配分方式にてお受取りになられる株主様】
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- 配当金の口座振込のご指定について
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- 未受領の配当金について
三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

新電元工業株式会社

〒100-0004
東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル)
電話 03-3279-4431(代表)
<http://www.shindengen.co.jp/>



Shindengen Electric Manufacturing Co., Ltd.



証券コード：6844

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第92期（平成26年度）の報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

◇当期の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減などにより個人消費は大きく落ち込んだものの、円安基調を背景として輸出企業を中心に収益が上向いたほか、雇用環境についても改善が見られるなど、緩やかに景気回復が進みました。また、海外においては、欧州や新興国では景気の減速が見られたものの、米国は堅調な個人消費に牽引されて景気回復基調が継続いたしました。

当社グループを取り巻く環境は地域によるばらつきがあったものの、成長事業と位置付けているモビリティ分野を中心に概ね堅調に推移いたしました。

このようななか、当連結会計年度の売上高は1,082億55百万円（前期比3.5%増）となりました。利益面においては、事業環境が概ね堅調に推移したほか、円安効果も加わるなど想定を上回る面もありましたが、新エネルギー製品の一部について点検・保守作業等を実施することになり、予想される発生費用見込額25億18百万円を営業費用に計上したことにより、営業利益は76億73百万円（前期比32.2%減）、経常利益は78億61百万円（前期比28.3%減）、当期純利益については52億52百万円（前期比56.7%減）となりました。

なお、株主の皆様への期末配当金につきましては、これらを総合的に勘案し、1株につき10円とさせていただきます。

◇次期の見通し

次期の見通しにつきましては、モビリティ分野では、二輪車市場においてASEAN地域を中心に自社製デバイスを搭載したECU（電子制御ユニット）の売上拡大が見込まれており、

電装事業とデバイス事業の両輪でシナジー効果が発揮される見通しです。新エネルギー分野では、蓄電システムやパワーコンディショナ、EV／PHV用充電器などのラインアップ拡充により多様な市場ニーズに対応できる体制を整え、スマートコミュニティ関連市場の新規開拓と深耕拡大を図ってまいります。

当社グループの次期の業績見通しにつきましては、売上高は1,090億円（前期比0.7%増）、利益面においては、営業利益は95億円（前期比23.8%増）、経常利益は93億円（前期比18.3%増）、当期純利益は63億円（前期比19.9%増）を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月



新 電 元 工 業 株 式 會 社

代表取締役社長 鈴木 雅人

◇ 当期のポイント

POINT-1 モビリティ分野を中心に概ね堅調に推移

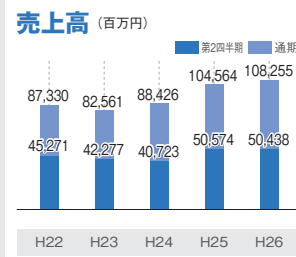
POINT-2 円安効果が寄与

POINT-3 積極的な設備投資、研究開発活動による費用増

POINT-4 新エネルギー製品の一部について、点検・保守作業等の実施に伴う発生費用見込額計上

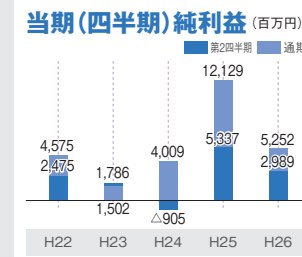
◇ 連結業績の推移

		第90期 （平成24年度）	第91期 （平成25年度）	第92期 （平成26年度）
売上高	（百万円）	88,426	104,564	108,255
営業利益	（百万円）	3,333	11,313	7,673
経常利益	（百万円）	3,317	10,960	7,861
当期純利益	（百万円）	4,009	12,129	5,252
1株当たり当期純利益	（円）	38.06	117.71	50.98
総資産	（百万円）	118,700	132,823	134,002
純資産	（百万円）	39,746	49,662	56,664
1株当たり純資産	（円）	372.73	481.97	549.97



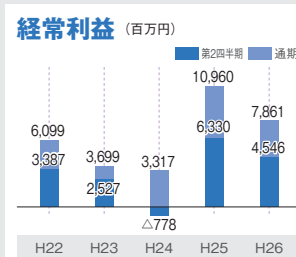
売上高 **1,082億55百万円** 前期比 36億90百万円増 (+3.5%)

売上高は前期比36億90百万円増の1,082億55百万円となりました。



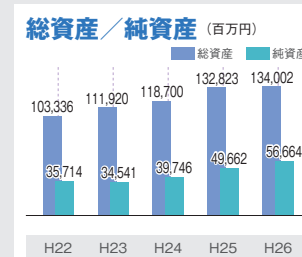
当期純利益 **52億52百万円** 前期比 68億76百万円減 (-56.7%)

当期純利益は前期比68億76百万円減の52億52百万円となりました。



経常利益 **78億61百万円** 前期比 30億99百万円減 (-28.3%)

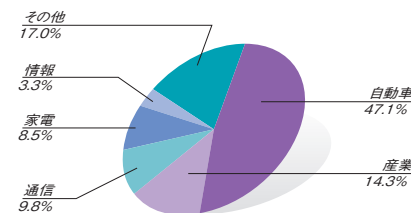
経常利益は前期比30億99百万円減の78億61百万円となりました。



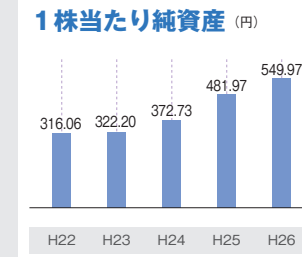
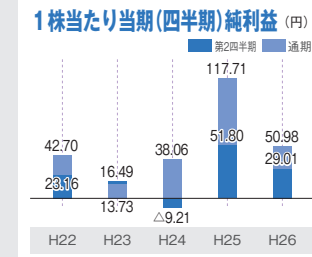
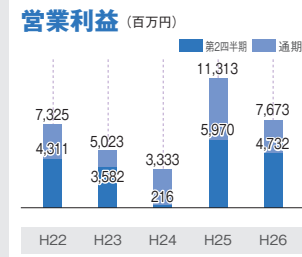
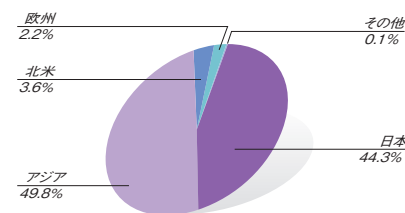
総資産 **1,340億 2百万円** 前期末比 11億78百万円増
純資産 **566億64百万円** 前期末比 70億 1百万円増

総資産については、主に有形固定資産が増加したことなどにより、前期比11億78百万円増の1,340億2百万円となりました。

市場別売上構成比率



仕向地別売上比率

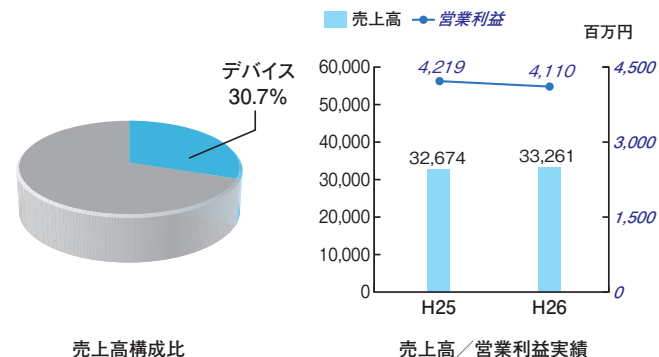


デバイス事業

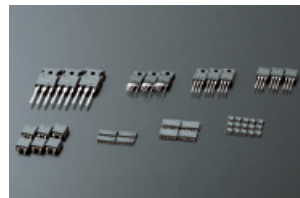
概況（平成26年度）

デバイス事業の売上高は332億61百万円（前期比1.8%増）、営業利益は41億10百万円（前期比2.6%減）となりました。

自動車市場においては、国内は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減から回復の兆しが見られず軟調に推移したものの、好調な北米に支えられ、面実装製品を中心に前年並みの水準となりました。産業機器市場は、中国・北米および国内でFA関連の設備投資が伸びたことなどにより大容量ダイオードを中心に需要が拡大し、デバイス事業全体としては増収となりました。損益面は、次世代の事業の柱とすべく、パワーモジュールへの研究開発や設備投資を増やしたことなどにより減益となりました。



主要製品



- ダイオード各種
 - ・一般整流ダイオード
 - ・ブリッジダイオード
 - ・高速整流ダイオード
 - ・ツェナーダイオード

- サージ防護素子
- SIDAC
- MOSFET
- IC各種
 - ・高耐圧パワーIC
 - ・省電力型パワーIC
 - ・DC-DCコンバータIC
 - ・モータドライバIC
- パワーモジュール

主な用途

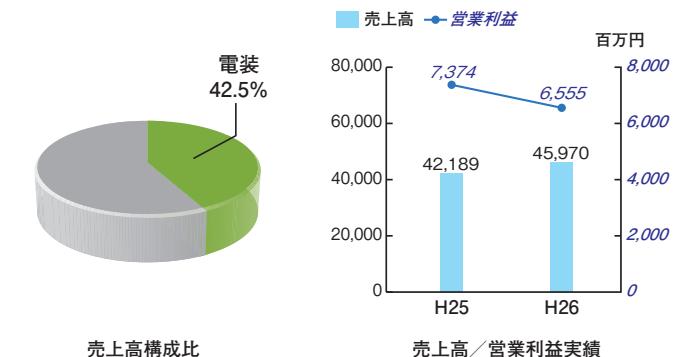
自動車、産業機器
デジタル家電、白物家電
通信機器、OA機器など

電装事業

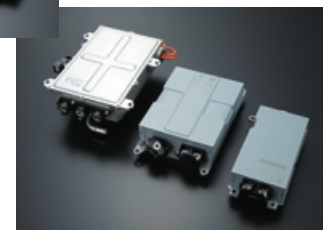
概況（平成26年度）

電装事業の売上高は459億70百万円（前期比9.0%増）、営業利益は65億55百万円（前期比11.1%減）となりました。

アジア二輪車市場においては、ASEAN地域で進むFIシステムへの移行に伴いECU（電子制御ユニット）が増加したほか、インドで新たに立ち上げた生産子会社の稼働が寄与したことにより、増収となりました。損益面においては、増産投資により減価償却費が増加したことなどにより、減益となりました。



主要製品



- 二輪車用電装品
 - ・レギュレータ／レクティブファイア
 - ・CDI
 - ・FIシステム向けECU

- 四輪車用電装品
 - ・DC/DCコンバータ
 - ・車載用充電器
 - ・ECU

主な用途

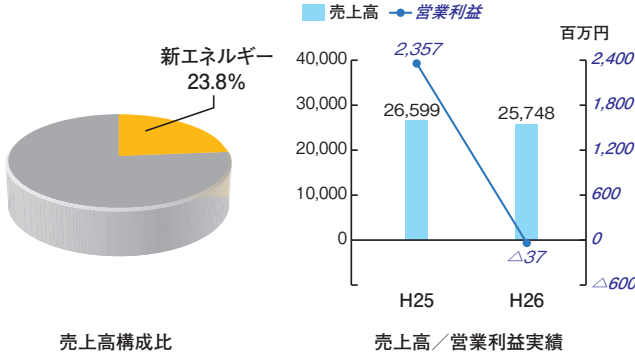
二輪車、四輪車、船外機

新エネルギー事業

概況（平成26年度）

新エネルギー事業の売上高は257億48百万円（前期比3.2%減）、営業利益は37百万円の損失（前期は23億57百万円の利益）となりました。

通信用電源需要が前期に比べ増加したものの、太陽光発電向けパワーコンディショナについては、前期までの拡大基調から、電力会社の接続保留問題などにより一時的に減速したことで、新エネルギー事業全体としては減収となりました。損益面においては、不採算事業の構造改革効果が見られたものの、一部の製品に対する点検・保守作業等の実施に伴う発生費用見込額を営業費用に計上したことから減益となりました。



主要製品



パワーコンディショナ
蓄電システム
EV/PHEV用充電器スタンド
発電機用インバータ
ガスコジェネレーションECU
通信装置用整流器
通信装置用インバータ

主な用途

太陽光発電システム
蓄電システム
EV用充電
発電機
ガスコジェネレーション
通信機器

◇ その他

売上高は32億75百万円（前期比5.6%増）、営業利益は55百万円（前期比3.3%減）となりました。

平成26年 4月

新製品情報 太陽光発電向けパワーコンディショナ SOLGRID®シリーズ FRT機能・周波数シフト方式を搭載三相9.9kW「PVS9R9T200A」販売開始

5月

IR 平成26年3月期 決算発表

展示会

「PCIM Europe」（ドイツ ニュルンベルク）出展

6月

新製品情報 スマートエネルギーマネジメントシステム「SOLGRID PLUS」開発

株主総会

第90回定時株主総会

8月

IR 平成27年3月期 第1四半期決算発表

お知らせ

Shindengen Lao Co., Ltd. 設立

9月

展示会 「第2回関西スマートコミュニティEXPO」出展

展示会

「エレクトリック&ハイブリッドビークル・バッテリーショー」（米国 ミシガン州）出展

11月

お知らせ 陸上競技部 第55回東日本実業団対抗駅伝競走大会に出場

IR

平成27年3月期 第2四半期決算発表

お知らせ

「CSR報告書」発刊

平成27年 1月

展示会 「第7回国際カーエレクトロニクス技術展」出展

お知らせ

PT. Shindengen Indonesia 新工場建設着工

2月

IR 平成27年3月期 第3四半期決算発表

新製品情報

太陽光発電システム向けパワーコンディショナSOLGRID®シリーズ 三相9.9kW/10kW「PVS9R9T200B/PVS010T200B」販売開始

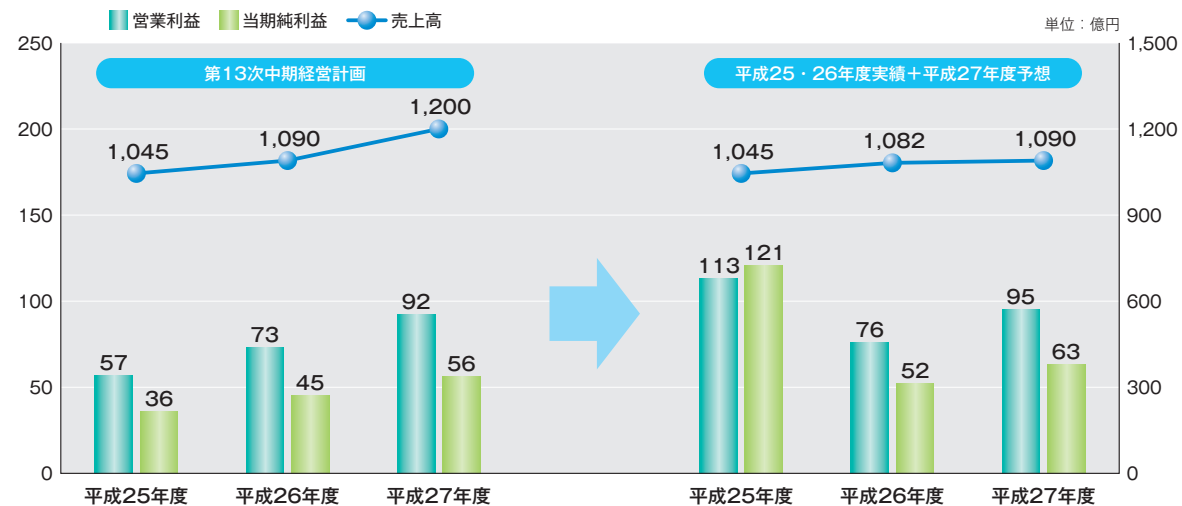
展示会

「第5回国際スマートグリッドEXPO」出展

中長期的な持続的成長に向けた戦略

平成27年度は平成25年度に策定した「第13次中期経営計画」の最終年度となります。売上高は中期経営計画の目標値におよばないものの、各段階損益については目標値を上回る見通しです。

高収益かつ規模の拡大に向けた取り組みとして、当社グループとしての中長期的なビジョンを定め、施策を着実に実行していくことで、持続的な成長につなげてまいります。



	平成26年度 (実績)	平成27年度 (予想)
売上高	1,082	1,090
営業利益	76	95
経常利益	78	93
当期純利益	52	63

単位：億円

～ 高収益かつ規模の拡大を目指して、
次世代の商品やビジネスモデルを確立させる ～

コスト低減

- 設計・部材・製造・品質など、多方面から、総合的な生産コストの低減を図る

事業構造転換

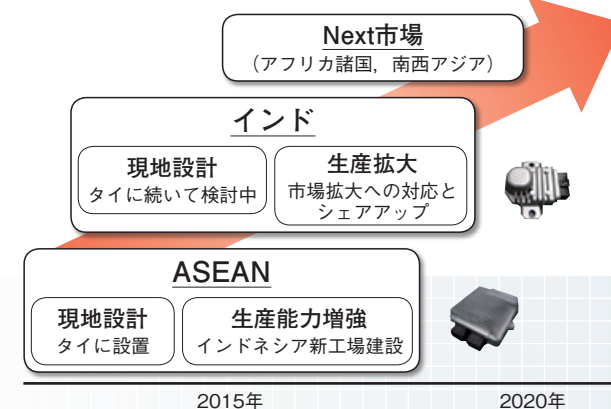
- 競争力の無くなった製品群を常に見直し
- 次の収益の柱となる、新しい製品群へ経営リソースをシフト

海外進出

- アジア圏市場を中心として、海外での事業展開を更に加速

電装事業

2輪車の市場規模は更に拡大
ASEANからインド・Next市場へ



デバイス事業

エネルギー効率改善の課題に対して、
パワー半導体のニーズは拡大

パワーモジュール

- 車載・産業機器市場を中心に拡大
- 欧米にも拡販
- 研究開発や設備投資を積極的に実施

MOS/IGBT/IC

- 照明・車載用デバイス開発

ダイオード

- 新製品開発 (SiC、低VFダイオード等)
- 既存ダイオードの生産コスト削減

- ✓パワーモジュール事業の本格化に向けた事業基盤の確立
- ✓電装・新エネ製品へ搭載し、シナジーを発揮

新エネルギー事業

エネルギーの効率利用と
スマートコミュニティ市場の拡大

蓄エネルギー関連製品

- マルチソースPCS等の拡販

太陽光発電向けPCS

- ラインアップ拡充により幅広いニーズに対応

EV/PHEV充電器

- 通信ネットワークを利用し、システムとして展開

通信市場向け電源

- 高電圧直流給電 (HDVC) の需要に対応

2015年 2020年

『新電元グループは、社会の発展と人類の繁栄に寄与する為、お客様・株主様から信頼され、地域・社会から敬愛され、従業員が誇りを持って働くことができ、そして地球環境と調和する、活力溢れる企業づくりに全社を挙げて取組み、もって世界の「良き企業市民」たることを旨とする。』

これが当社のCSRの基本理念です。私たちはグループをあげてこの基本理念を追求し、「エネルギーの変換効率を極限まで追求することにより、人類と社会に貢献する」という企業ミッションのもと、環境性能に優れた製品を開発・提供することで、低炭素社会の実現に向けて貢献しています。

◇社会的課題の解決に向けた取り組み

当社は、2011年から「あきたEVバス実証コンソーシアム」に参画しています。

このコンソーシアムは、環境負荷の少ないEVバスを実際の営業路線で運行させており、将来的には、降雪地対策、高齢化福祉社会対策（屋内乗降、コンパクトシティ化）等、地域の社会的課題に則した実用的な次世代公共交通システムの実現を目指しています。

地域の産学官連携によるコンソーシアムの中で、当社製急速充電器1基が秋田中央交通買物広場（秋田駅前）に設置され使用されています。



◇地域貢献活動への取り組み

当社グループでは、地域社会との共存・共栄を目指した活動を展開し、地域社会から信頼される企業をめざしています。東根新電元（勝浦）では、地域コミュニケーションの一環として毎年「クリーンキャンペーン in 南房総」に参加し、勝浦の美しい海岸を清掃しています。

新電元フィリピンでは、毎年「FUN RUN」を開催し、従業員、家族、友人およびその他地域の方々が多数参加しています。「FUN RUN」では、走る距離に応じて寄付を募っています。集まった寄付金は近隣の老人介護施設、小学校にベッドや血圧計などを寄贈しています。



◇環境経営の取り組み

新電元グループでは、事業活動における地球温暖化対策、化学物質削減、廃棄物削減および水資源、生物多様性等の環境負荷低減および環境リスクの低減に努めております。

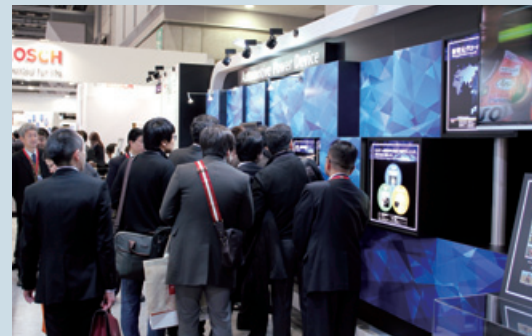
当社と新電元スリーイーに、当社製「EV/PHEV用普通充電器スタンド」を設置し、電気自動車を利用した従業員の拠点間移動を推奨しています。



◇「第7回 国際カーエレクトロニクス技術展」に初出展しました！

モビリティ市場において新電元の製品・技術を業界全体に広く認知していただくことを目指し、今後の拡販に繋げるための新たな取り組みとして、「第7回 国際カーエレクトロニクス技術展（以下、カーエレジャパン）」に初出展いたしました。

カーエレジャパンでは、欧米・アジア等の有力自動車関連企業へ当社の高い技術力をアピールし、将来の新規顧客の発掘に力を注ぎました。



第7回 国際カーエレクトロニクス技術展（場所：東京ビッグサイト 会期：2015年1月14日～16日）

◇会社概要（平成27年3月31日）

商号 新電元工業株式会社
 本社所在地 東京都千代田区大手町二丁目2番1号
 設立年月日 昭和24年8月16日
 資本金 17,823百万円
 従業員数 連結：5,274名 単体：959名
 主要事業所 大阪支店・名古屋支店・飯能工場

◇取締役および監査役（平成27年6月26日）

代表取締役社長 森 川 雅 人 取締役 山 田 一 郎
 取締役 佐々木 延 幸 取締役 橋 元 秀 行
 取締役 荒 幡 義 光 常勤監査役 肥 後 良 明
 取締役 鈴木 吉 憲 監 査 役 沖 本 隆 史
 取締役 根 岸 康 美 監 査 役 三 宅 雄 一 郎
 取締役 堀 口 健 治

（注1）取締役山田一郎および橋元秀行の両氏は、社外取締役であります。
 （注2）監査役沖本隆史および三宅雄一郎の両氏は、社外監査役であります。

◇執行役員（平成27年6月26日）

常務執行役員 佐々木 延 幸 執行役員 白 羽 真
 常務執行役員 荒 幡 義 光 執行役員 新 関 清 司
 上席執行役員 鈴木 吉 憲 執行役員 田 中 裕 明
 上席執行役員 根 岸 康 美 執行役員 田 中 信 吉
 執行役員 堀 口 健 治 執行役員 佐々木 正 博
 執行役員 中 村 政 則 執行役員 福 永 正 仁

◇グループ企業一覧（平成27年4月1日現在）

〈国内〉	〈海外〉	
株式会社秋田新電元	Lumphon Shindengen Co., Ltd.	Shindengen America, Inc.
株式会社東根新電元	Shindengen Philippines Corp.	新電元（香港）有限公司
株式会社岡部新電元	Shindengen India Pvt Ltd.	Shindengen UK Ltd.
新電元デバイス販売株式会社	PT.Shindengen Indonesia	Shindengen Singapore PTE Ltd.
新電元エンタープライズ株式会社	Shindengen Vietnam Co., Ltd.	Shindengen Lao Co., Ltd.
新電元スリーイー株式会社	広州新電元電器有限公司	Napino Auto & Electronics Ltd.
新電元熊本テクノロジーサーチ株式会社	Shindengen (Thailand) Co., Ltd.	
新電元メカトロニクス株式会社	新電元（上海）電器有限公司	

本書における、将来の見通しに関する記載につきましては、現時点で得られた情報に基づいており、多分に不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより記載の見通しとは異なる結果となる可能性があることに留意ください。

◇株式の状況（平成27年3月31日）

発行可能株式総数 310,000,000株
 発行済株式総数 103,388,848株
 株主数 6,416名
 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
本 田 技 研 工 業 株 式 会 社	13,363 千株	12.92 %
中 央 不 動 産 株 式 会 社	9,800	9.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	4,781	4.62
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,689	3.56
資産管理サービス信託銀行株式会社（みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口）	3,568	3.45
朝 日 生 命 保 険 相 互 会 社	3,255	3.14
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	2,347	2.27
新 電 元 工 業 協 力 会 社 持 株 会 社	2,086	2.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4）	1,965	1.90
株 式 会 社 埼 玉 り そ な 銀 行	1,857	1.79

所有者別株式分布状況

